2023 年 3 月退職時に退職記念論文集を頂きました（感謝！）。その巻末に載せるためにと，東北大学のカン・ミンギョンさんがまとめてくれました（感謝！）。
その後の発表論文を 1 点追加しました。

まあ，掻き集めてもこの程度です。今世紀に入って停滞してました。でもまだ人生は続く。これからもう少し頑張れるでしょうか。（2024 年 1 月，TN）

*****

主な学術論文

1. Zu den Präpositionen, die den Dativ und Akkusativ regieren. In: *Keim* 第 5 号，82-95, 1981 年.
2. 「「場所の変化」から「状態の変化」へ ― den Wagen mit etwas beladen 型の表現についての考察 ―」In: *Keim* 第 6 号，19-33，1982 年.
3. 「３格目的語と４格目的語の相違についての一考察」『富山大学教養部紀要』18 巻 2 号，85-100，1986 年.
4. 「移動の空間関係を表示する４格目的語について ― いくつかの be-動詞を例として ―」 In: *Spuren*（野村泫先生退官記念論文集）三修社，205-216, 1987 年.
5. 「「４格化」と文の意味 ― be-動詞表現を例にして ―」『富山大学教養部紀要』22 巻 2 号，117-128, 1990 年.
6. Zur semantischen Charakterisierung der Satzglieder ― Nominativsubjekt, Akkusativobjekt und Dativobjekt ―. In: *Energeia* 17 号，93-105, 1991 年.
7. Akkusativierung und Satzbedeutung ― eine Korpusanalyse an Beispielen mit *be*-Verben. 『富山大学教養部紀要』24 巻 2 号，177-191, 1992 年.
8. 「ドイツ語 4 格目的語の一特性について ― 日本語のヲ格補語と比較して ―」『富山大学教養部紀要』25 巻 2 号，153-168, 1993 年.
9. 「結合価の記述と説明 ― 前置詞格目的語の場合」『富山大学人文学部紀要』20 巻, 253-262, 1994 年.
10. 「補足成分と添加成分の区別をめぐって」『大阪市立大学文学部紀要人文研究』46 巻 12 号，123-144, 1994 年.
11. 「Perspektive の概念について ― 構文研究の概点から ―」『大阪市立大学文学部紀要人文研究』47 巻 10 号，161-178, 1995 年.
12. 「ドイツ語と日本語の受動態について ― その意味の相違 ―」日本独文学会編『ドイツ文学』97 巻，122-133, 1996 年.

13. 「ドイツ語の文型記述に向けて」阪神独文学会編『ドイツ文学論攷』39 号, 91-108, 1997 年.
14. 「ドイツ語の他再動詞と他自動詞について」『東京外国語大学独立百周年記念論文集』, 171-194, 1999 年.
15. 「結合価と構文 — 日独対照の観点から」『東京外国語大学語学研究所論集』7 巻, 1-22, 2002 年.
16. 「ドイツ語動詞「前綴り」の分離・非分離をめぐって — ドイツ語授業での説明原理を求めて」『東京外国語大学語学研究所論集』8 巻, 1-19, 2003 年.
17. 「不変化詞動詞と対応表現 — コーパス調査に基づく考察 —」岡本順治［編］『いわゆる「分離動詞」をめぐって』（日本独文学会研究叢書 23 号）, 40-55, 2003 年.
18. 「文構造と動詞 — 日本語と対照しながらドイツ語の特徴を探る」河崎靖ほか［編］『ドイツ語学の諸相 — 西本美彦先生退官記念論文集 —』郁文堂, 75-88, 2004 年.
19. Ist das Passiv eine „Leideform“? — Ein deutsch-japanischer Kontrast. In: Narita, Takashi, Akio Ogawa und Toshiaki Oya. [Hgg.] *Deutsch aus ferner Nähe. Japanische Einblicke in eine fremde Sprache. Festschrift für Susumu Zaima zum 60. Geburtstag*. Stauffenburg Verlag, 41-56, 2005 年.
20. 「ドイツ語の be-動詞表現 — 対格化をめぐって —」川口裕司ほか［編］『言語情報学研究報告』7 巻, 361-381, 2005 年.
21. Zum Passiv im Deutschen und im Japanischen. In: *Perspektiven Zwei. Akten der 2. Tagung Deutsche Sprachwissenschaft in Italien: Rom, 9.-11. Februar 2006* (Italienische Studien zur deutschen Sprache. 3), 39-51, 2007 年.
22. 「werden 受動の意味と用法 — Bernhard Schlink „Der Vorleser“ の受動文を例に —」三瓶裕文・成田節［編］『ドイツ語を考える — ことばについての小論集』三修社, 113-121, 2008 年.
23. 「視点と日独語の表現 — 翻訳の対照を手がかりに」『東京外国語大学論集』79 号, 399-414, 2009 年.
24. 「研究ノート：ドイツ語の与格と対格 — コーパスを使って数える」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』Nr. 3, 93-110, 2009 年.
25. 「ドイツ語にみる文の成分」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂, 2010 年 7 月号, 141-147.
26. Ausdrücke benefaktiver Bedeutung － ein deutsch-japanischer Kontrast. In: Maeda, Ryozo [Hg.] *Transkulturalität. Identitäten in neuem Licht, Asiatische Germanistentagung in Kanazawa 2008*, 154-160, 2012 年.
27. 「翻訳と語り手の視点」竹内義晴編『翻訳という問題から見えてくる言語, 文化,

人間』（日本独文学会研究叢書 85 号），22-39，2012 年.

28. 「ドイツの辞典」『文学』，岩波書店，2015 年 9・10 月号，114-129.
29. 「ドイツ語の受動文 ― 日本語の「受身」とどう違うか ―」『エネルゲイア』43 号，19-40，2018 年.
30. 「視点/Perspektive と動詞表現 ― ドイツ語と日本語の対照に向けて ―」日本独文学会『ドイツ文学』166 号，71-87, 2023 年

その他

1. 「特集 受動表現 ドイツ語」『東京外国語大学語学研究所論集』第 14 号, 141-147, 2009 年.
2. 「特集 アスペクト ドイツ語のアスペクト表現データ」『東京外国語大学語学研究所論集』第 15 号, 231-244, 2010 年.
3. 「特集 モダリティ ドイツ語」『東京外国語大学語学研究所論集』第 16 号, 75-86, 2011 年.
4. 「特集 （連用修飾的）複文 ドイツ語」『東京外国語大学語学研究所論集』第 20 号, 63-75, 2015 年.
5. 「特集 情報構造と名詞述語文 調査例文（ドイツ語）」『東京外国語大学語学研究所論集』第 21 号, 67-75, 2016 年.
6. 「移民と若者言葉」『言葉から社会を考える』東京外国語大学言語文化学部［編］，白水社, 19-21, 2016 年.
7. 「特集 否定，形容詞と連体修飾複文 ドイツ語データ」『東京外国語大学語学研究所論集』第 23 号, 49-59, 2019 年.
8. 「特集補遺 ドイツ語における情報標示の諸要素」『東京外国語大学語学研究所論集』第 23 号, 279-288, 2019 年.
9. 「コーパスから見えるドイツのことば・文化・社会」『東京外国語大学語学研究所オープンアカデミー報告書』1-21, 2019 年.
10. 「特集補遺 ドイツ語における他動性」『東京外国語大学語学研究所論集』第 25 号, 173-188, 2021 年.

主な口頭発表

1. 「４格目的語と３格目的語 ― 統語的・意味的考察」日本独文学会春季研究発表

会シンポジウム「意味論のいくつかの問題をめぐって」(慶応大学). 1985 年 5 月.

2. 「意味格についての一考察 ― 文成分との対応を中心に」日本独文学会北陸支部研究発表会（金沢大学）. 1985 年 11 月.
3. 「４格化と文の意味 ― be-動詞表現を中心に」日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「ドイツ語学研究における意味と文法」（大阪大学）. 1989 年 10 月.
4. Akkusativierung und Satzbedeutung ― eine empirische Untersuchung an einigen be-Verben. 日本独文学会語学ゼミナール（京都府立セミナーハウス）. 1991 年 8 月.
5. 「ドイツ語の４格と日本語の「ヲ」」日本独文学会秋季研究発表会（筑波大学）. 1992 年 10 月.
6. 「結合価の記述と説明 ― 前置詞格目的語の場合」日本独文学会研究発表会 シンポジウム「文法記述・辞書記述の諸問題」（富山大学）. 1993 年 10 月.
7. Das Passiv im Deutschen und im Japanischen. 日本独文学会語学ゼミナール（関西セミナーハウス）. 1995 年 8 月.
8. 「「視点」概念をめぐって ― 結合価研究の観点から」日本独文学会秋季研究発表会（北海道大学）. 1995 年 9 月.
9. 「基本文型の記述」日本独文学会秋季研究発表会 シンポジウム「文分析の基本概念」（大谷大学）. 1996 年 10 月.
10. 「他再動詞と他自動詞についての考察」日本独文学会秋季研究発表会（関西学院大学）. 1998 年 10 月.
11. 「結合価と構文 ― 日独対照の観点から」日本独文学会秋季研究発表会（南山大学）. 2000 年 10 月.
12. 「動詞前つづりの分離・非分離をめぐって」日本独文学会秋季研究発表会（信州大学）. 2001 年 10 月.
13. 「不変化詞動詞と対応表現 ― コーパス調査による考察」日本独文学会秋季研究発表会 シンポジウム「いわゆる『分離動詞』をめぐって」（新潟大学）. 2002 年 10 月.
14. 「be-動詞表現について ― ４格目的語化と「視点」概念 ―」日本独文学会秋季研究発表会（東北大学）. 2003 年 10 月.
15. Das Passiv im Deutschen und im Japanischen. 2. Tagung deutsche Sprachwissenschaft in Italien（ローマ大学）. 2006 年 2 月.
16. 「視点と日独語の表現 ― 翻訳の対照を手がかりに」日本独文学会春季研究発表会（立教大学）. 2008 年 6 月.
17. Ausdrücke benefaktiver bzw. malefaktiver Bedeutung. Ein deutsch-japanischer Kontrast.

アジア・ゲルマニスト会議（金沢星稜大学）．2008 年 8 月．

18. 「ドイツ語の与格と対格 ― コーパスを使って数えてみると何が見えるか ―」日本独文学会秋季研究発表会（岡山大学）．2008 年 10 月．
19. Zum Begriff „Perspektive“ – eine deutsch-japanisch kontrastive Untersuchung. 日本独文学会語学ゼミナール（京都）．2009 年 8 月．
20. Zu unterschiedlichen Ausdrucksweisen im Deutschen und Japanischen – anhand von Belegen aus literarischen Texten und deren Übersetzungen –. 淡江大学シンポジウム: Literaturwissenschaft und Fremdkulturhermeneutik（淡江大学）．2010 年 6 月．
21. Zu satzsemantischen Funktionen der verbalen Morphologie im Deutschen und Japanischen. 国際ゲルマニスト会議（ワルシャワ大学）．2010 年 8 月．
22. 「翻訳と語り手の視点」日本独文学会秋季研究発表会 シンポジウム「翻訳という問題から見えてくる言語，文化，人間」（金沢大学）．2011 年 10 月．
23. 「コーパスとドイツ語研究・ドイツ語教育」東吳大學外國語文學院「語料庫與外語教學研究」國際研討會（日本語での招待講演，中国語への通訳付き）．2013 年 3 月．
24. 「ドイツ語と日本語の受動文 ― その基本的な違い」日本独文学会秋季研究発表会（鹿児島大学）．2015 年 10 月．
25. 「er と「彼」，sie と「彼女」－ ドイツ語と日本語の「人称代名詞」について」日本独文学会秋季研究発表会（東北大学（オンライン開催））．2021 年 10 月．

主な学術書（共編書）

1. 『いわゆる「分離動詞」をめぐって』〔岡本順治氏との共編〕，日本独文学会研究叢書 023，2003 年.
2. *Deutsch aus ferner Nähe. Japanische Einblicke in eine fremde Sprache. Festschrift für Susumu Zaima zum 60. Geburtstag*〔小川暁夫氏・大矢俊明氏との共編〕, Stauffenburg, 2005 年.
3. 『ドイツ語を考える ― ことばについての小論集』〔三瓶裕文氏との共編〕，三修社，2008 年.
4. *Kultur im Spiegel der Wissenschaften. Beiträge zum internationalen Seminar der Tokyo University of Foreign Studies an der Stiftung Universität Hildesheim.* [hrsg. von Wolfgang Schneider und Takashi Narita], iudicium, 2014 年.

主な教科書・辞書等

1. 『新アルファ独和辞典』〔在間進氏（責任編集）ほかとの共編〕三修社，1993 年.
2. 『ドイツ語への旅立ち』〔菊池悦郎・木村英二氏との共著〕白水社，1994 年.
3. 『月刊基礎ドイツ語』の文法解説記事，三修社，1997 年 8 月号～2000 年 3 月号.
4. 『ワイマルでの出会いから』〔Joachim Weiland・椿鐵夫氏との共著〕同学社，1999 年.
5. 『練習で覚えるドイツ語初級文法』郁文堂，2000 年.
6. 『冠詞・前置詞・格』（ドイツ語文法シリーズ）〔中村俊子氏との共著〕大学書林，2004 年.
7. 『アクセス独和辞典　第３版』〔在間進氏（責任編集）ほかとの共編〕三修社，2010 年.
8. 『ドイツ語文法の基礎（改訂版）』〔櫻井麻美氏との共著〕同学社，2018 年.
9. 『アクセス独和辞典　第４版』〔在間進氏（責任編集）ほかとの共編〕三修社，2021 年.
10. 「対照言語学 依頼の E メール ドイツ語解説」 坂本惠・友常勉・東京外国語大学国際日本研究センター［編］『国際日本研究への誘い』東京外国語大学出版会，79-90，2022 年.